



明日、起こるかもしれない！ 南海トラフ巨大地震

●東日本大震災(画像提供:東北地方整備局震災伝承館)

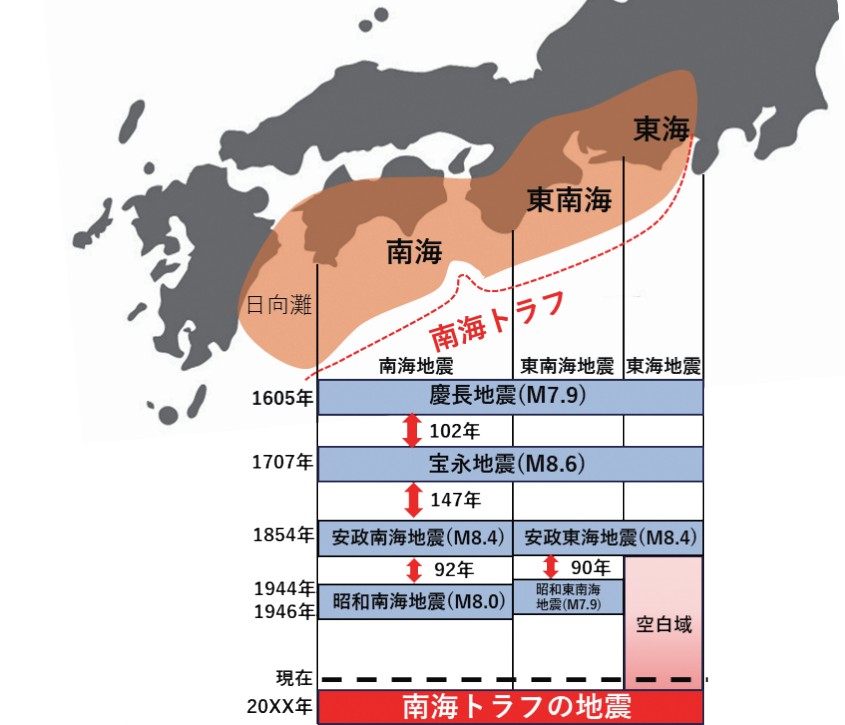
多くの尊い命が失われ、甚大な被害をもたらした東日本大震災。本県においても、南海トラフ巨大地震の発生が懸念されています。明日起こるかもしれない南海トラフ巨大地震に備えて、まずは地震や津波について知り、今からできる備えを始めてください。日頃からの心構えが、あなたの命、家族の命を守ります。

南海トラフ巨大地震はいつ起こる？

今後30年以内の発生確率は、60%～90%程度以上！

※令和7年1月1日時点

過去に起きた 南海トラフの地震



■南海トラフの地震は、概ね100年から150年の周期をもって繰り返し発生しており、これまで徳島県に大きな被害をもたらしてきました。前回の昭和南海地震が1946年(昭和21年)に発生しており、今世紀前半にも発生する可能性があります。「南海トラフ巨大地震」は南海地震の震源域を含む広い範囲で発生する最大クラスの地震・津波を想定したもので、発生すれば広範囲に及ぶ甚大な被害をもたらすことが考えられます。

■解説

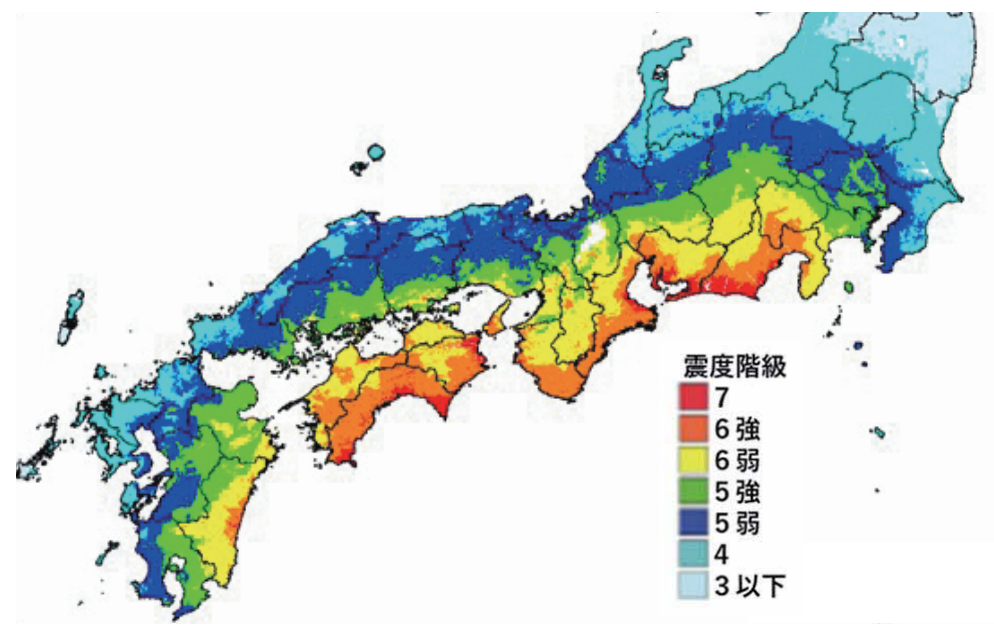
昭和南海地震は1946年12月21日午前4時19分頃に発生したマグニチュード8.0の地震でした。徳島県内では死者数202人、全壊家屋602戸、津波による流失413戸など大きな被害をもたらしました。この地震による揺れは、沿岸部で震度5、内陸部で震度4、余震は月内に有感55回、無感230回が観測されています。



●「牟岐町、道路に押し上げられた漁船」(気象庁ホームページより)

南海トラフ巨大地震はどんな地震？

南海トラフ巨大地震による震度分布図



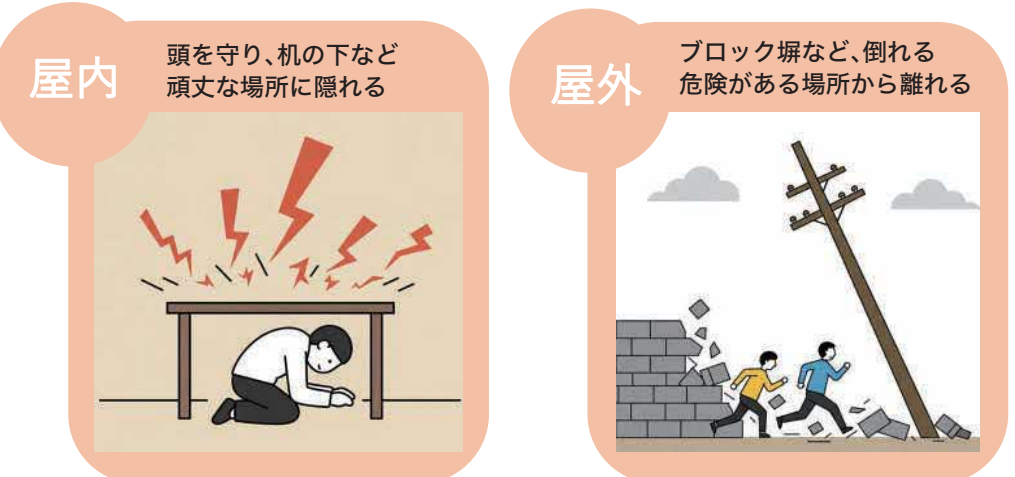
出典:南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ(内閣府)報告書説明資料※(令和7年3月31日公表)より

※令和7年3月に内閣府が公表した被害想定は、主として広域的な防災対策を検討するためのマクロの被害を想定したものです。

■南海トラフ巨大地震が発生したときに、想定される揺れの大きさは、震度6強から震度7※で**身動きがとれない揺れが長く続く**と考えられています。この非常に強い揺れによって、建物が倒壊したり、道路や橋などの土木構造物が被害を受けたりします。さらに、そこに巨大な津波が襲ってくるほか、火災の発生や液状化などの災害を同時に受ける**「複合災害」**となることが想定されています。

※南海トラフ巨大地震モデル・被害想定手法検討会(内閣府)が想定する5つのケースのうちの最大震度

■揺れを感じたらまず身を守る行動をとみましょう。



避難について考え、備えよう！

地震が起きてから、どこに避難するかを考えても間に合いません。日頃から家族や地域、職場などで自助・共助の取組を話し合っておくことが重要です。

避難場所を確認しよう

「防災・減災マップ」から確認してください。住んでいる地域の「ハザードマップ」についても確認しましょう。

※津波や豪雨など災害の種類によって避難場所が異なります。

県HP:防災・減災マップ(総合地図提供システム)



避難経路を歩いてみよう

避難は**徒歩が原則**(車は渋滞が発生)です。避難場所までの道を、**季節や時間帯を変えて**歩いてみましょう。実際に歩いて、地震発生時に倒れるおそれのある電柱やブロック塀などを確認しましょう。また発災時には、**液状化や強い揺れによる家屋の倒壊・道路の損傷により通行できなくなる**ことも想定されるので、**複数の避難経路**を考えておく必要があります。



家族で話そう「防災のこと」

●家族との連絡方法

「SNS」や「災害用伝言サービス」など、家族が離れ離れになった場合の連絡方法を決めておきましょう。

●避難場所・避難経路・避難方法

自宅だけではなく、職場など、よくいる場所の避難場所や避難経路、避難方法を確認しておきましょう。



●役割分担

ブレーカーを落とす人、ガスコンロの火を消す人、ドアをあける人、お年寄りや子どもを守る人、非常用持ち出し品を管理する人などを決めておきましょう。

●非常用持ち出し品の準備

いつでも持ち出せるように、非常用持ち出し品を準備して、置き場所を決めておきましょう。

●住宅の危険箇所

自分の住んでいる家の中や外で、どこが安全か、また危険なところがないかを確認しておきましょう。

“強い揺れ”への対策を！

■住まいの地震対策は大丈夫？

平成12年5月以前に建築された木造住宅は、これまで、地震による強い揺れで多く倒壊しています。特に、昭和56年5月以前に建築された木造住宅は、耐震性能を満たしていないおそれがあるため、倒壊する危険性が高まります。また、強い揺れによって家具が転倒・落下して下敷きになったり、出入り口がふさがれて逃げ遅れてしまうことも考えられます。命を守るためには、事前の対策が重要です。行政の支援制度を積極的に活用して、住まいの地震対策を行いましょう。

「木造住宅耐震化支援制度」の詳細はこちら

制度を利用するためには、一定の条件を満たす必要があります。市町村により内容が異なります。
徳島県住宅課 問い合わせ先:088-621-2598



「家具固定」の詳細はこちら

「地震による家具の転倒を防ぐには-あなたが守る-家族の安全」(総務省消防庁ホームページ)



■「地震保険」に加入していますか？

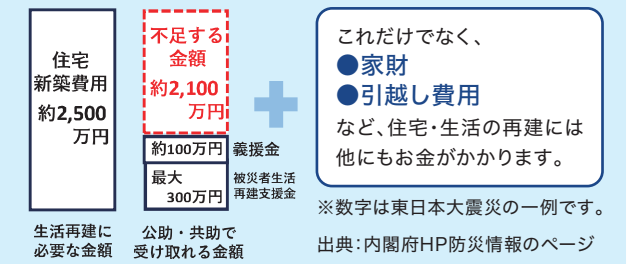
地震保険は「地震保険に関する法律」に基づいて、政府と損害保険会社が共同で運営する官民共同の保険です。災害後の生活を守る経済的備えとして地震保険に加入しましょう。

地震保険の補償の対象となるもの※建物と家財はそれぞれが加入が必要です。

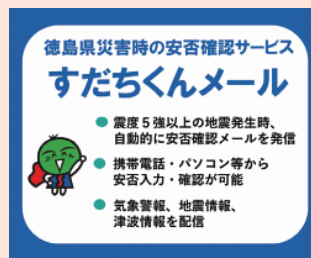
- 地震による直接的な住宅の損害
- 地震による火災や津波などで住宅や家財が受けた損害

地震保険の加入に関するご相談は、お近くの損害保険代理店または損害保険会社まで。

●住宅再建にはこんなに費用がかかります



●災害時に最新の情報を入手して命を守ろう。



徳島県津波浸水想定

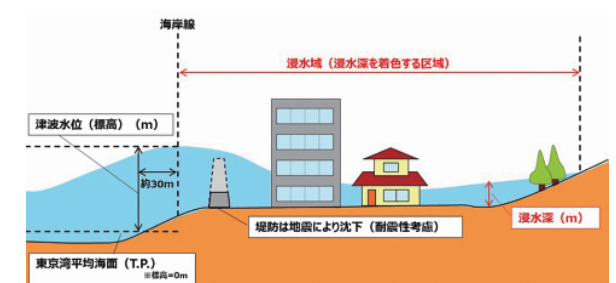
令和7年3月に内閣府が公表した被害想定を踏まえて、最新の地形データなどを反映した、より詳細な『津波浸水想定』を公表しました。

■「徳島県津波浸水想定」は、発生頻度は極めて低いものの、想定される最大クラスの地震による津波を対象としています。津波に対しては、「迅速な避難」が極めて重要です。県民の皆様には「迅速な避難」につなげるため、避難場所や避難経路の確認、避難訓練の頻回実施をお願いします。

「徳島県津波浸水想定」について

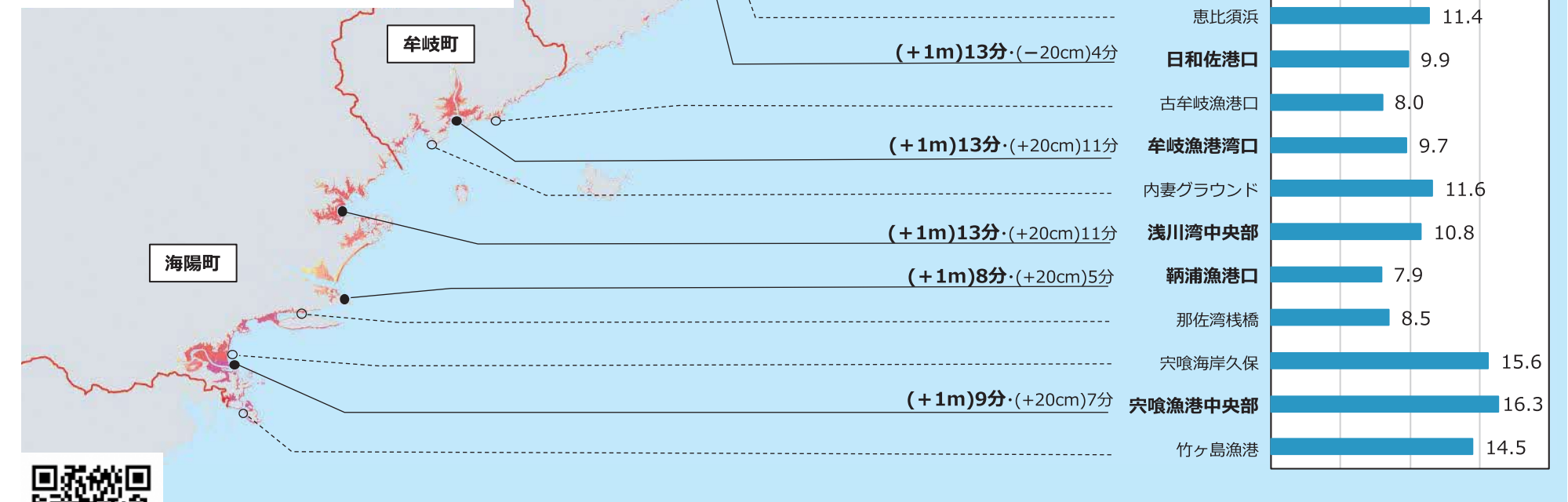
- 最大クラスの津波が悪条件下※において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）です。
- 過去の津波や今後発生が想定される津波から設定したもので、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域や浸水深は、津波の第1波ではなく第2波以降に最大となる場所もあります。
- 浸水域や浸水深は、地面の凹凸や建築物等の影響等により、浸水域外でも浸水が発生したり、局所的に浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。

- ※悪条件下（沿岸構造物の耐震評価がない場合の条件）
- 護岸・防波堤（コンクリート構造物）
 - ➔揺れ・液状化により地震発生と同時に破壊する。
 - 堤防（盛土構造物）
 - ➔揺れ・液状化により地震発生と同時に高さが地震前の25%に沈下する。
 - ➔津波が堤防を乗り越えたら高さを0%にする。



※津波水位は地殻変動量を考慮した値
※沿岸構造物は耐震性を考慮

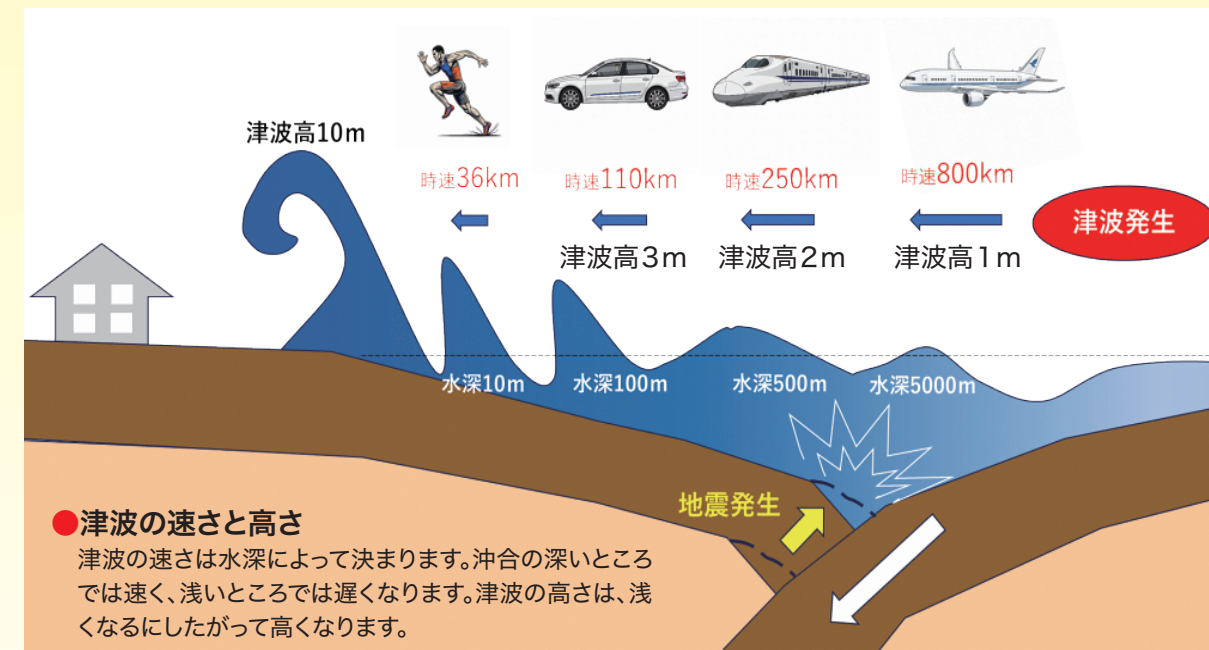
浸水深(m)		津波の到達予想時間について
20.0 ~	10.0 ~ 20.0	
5.0 ~ 10.0	3.0 ~ 5.0	●津波到達時間(+1m) 堤防より陸側において、標高の低いところでは浸水被害が発生する恐れのある水位変化が生じるまでの時間
1.0 ~ 3.0	0.5 ~ 1.0	●津波影響開始時間(±20cm) 海辺にいる人々の人命に影響が出る恐れのある水位変化が生じるまでの時間
0.3 ~ 0.5	~ 0.3	(注) 図中(±20cm)表示がある地点は、+20cmよりも-20cmの水位変化が先に生じる地点を示す。



詳しくは安心とくしま(県HP)をご確認ください。
<https://www.pref.tokushima.lg.jp/anshin/kinkyu/saigai-info/7247695/>

津波を知ろう！

海の底で大きな地震が発生すると、海底が上下に変動し、その動きが海水に伝わり津波が発生します。



- 海岸に近づくほど**急激に高く**なります。
- 津波の伝播速度は非常に速く、**見てから逃げるのでは間に合いません**。
- 津波は「**引き**」から始まるとは**限りません**。“潮が引いたら逃げればよい”というのは大きな間違いです。
- 津波の力は非常に強く、**高さ20~30cm程度の津波**であっても速い流れに巻き込まれるおそれがあります。
- 沿岸の地形の影響などにより、**局所的に高くなる**ことがあります。
- 津波は繰り返し襲ってきます。**後から来る津波の方が高くなる**こともあります。
- 広い範囲の沿岸に津波が到達し、津波が**半日や1日以上**継続することもあります。

津波からはとにかく避難！

津波から身を守るためには、避難が第一です。避難行動がとれるよう以下のことに注意しましょう。

「早く・近くの・高いところへ」

津波避難のタイミング

- ▶**海岸で地震の揺れ**を感じたら「津波警報・注意報」を待たずに
- ▶地震の揺れを感じなくても「**津波警報・注意報**」が発表されたら

直ちに避難！

避難する(した)際の留意事項

- ▶**周囲の方**にも声をかけて**一緒に避難**
- ▶**安全が確認**(避難指示が解除)されるまでは、避難場所から帰らない



穴喰津波避難タワー(海陽町穴喰)

津波に関する統一標識



【津波避難ビル】
「津波に対しての安全な避難場所(津波避難ビル)」の情報を表示。



【津波避難場所】
「津波に対しての安全な避難場所(高台)」の情報を表示。



【津波注意】
地震が起きた場合、津波が来襲する危険のある地域を表示。

「津波てんでんこ」とは？

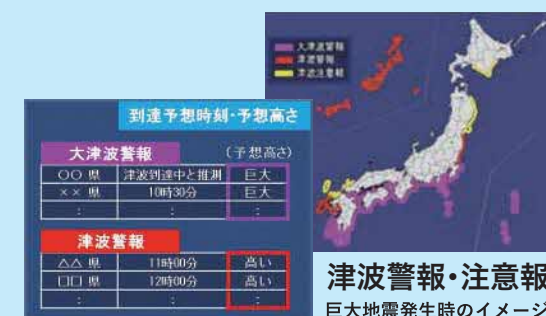
津波被害が多い三陸(東北)地方で「津波起きたら命てんでんこだ」と伝えられてきました。これは「津波が起きたら家族と一緒にいなくても気にせず、てんでばらばらに高所に逃げ、**まずは自分の命を守れ**」という意味です。この教えは東日本大震災でも活かされ、岩手県釜石市では、小中学生がためらわずに高台へ避難したことで大切な命が助かりました。(釜石の奇跡) この教訓に基づき、まずは**命を守る行動**を取りましょう。



「津波警報・注意報」とは？

気象庁は、津波による災害の発生が予想される場合には、地震発生後約3分を目標に、大津波警報、津波警報または津波注意報を発表します。津波警報・注意報を発表する場合には、予想される津波の「最大波の高さ」と最も早い津波の第一波の「到達予想時刻」の情報を発表します。

M8を超える巨大地震の場合



- M8を超える巨大地震の場合、正確な地震の規模をすぐに把握できないため、最大の津波想定等をもとに、津波警報・注意報を発表します。

- 最初に発表される大津波警報や津波警報は予想される津波の高さを「**巨大**」や「**高い**」という言葉で発表して非常事態であることを伝えます。その後、正確な地震の規模が把握でき次第、津波警報・注意報を更新し、予想される津波の高さも数値で発表します。

正確な地震の規模がわかった場合

分類	予想される津波の高さ	
	高さの区分	発表する値
大津波警報	10m~	10m超
	5m~10m	10m
	3m~5m	5m
津波警報	1m~3m	3m
津波注意報	0.2m~1m	1m

- 予想される津波の高さを「**1m・3m・5m・10m・10m超**」の**5段階**で発表します。

- 例えば、3~5mの津波が予想された場合は、「大津波警報」が発表され、「予想される津波の高さは5m」と発表されます。